

令和7年度 第3回浄水地域会議 会議録

■ 日時 令和7年7月9日(水) 午後7時 ~ 8時

■ 場所 浄水交流館 大会議室

■ 出席者

＜委員＞	石川 須美子	内迫 貴光	勝野 房則	加藤 耕助
	桑原 正明	佐竹 修	土田 洋	長江 光一
	成瀬 博文	野畑 安浩		

＜事務局＞ 杉浦 智文（地域交流課 課長） 吉村 直樹（地域交流課 担当長）
渡邊 洋一（地域交流課 主任主査）

■ 内容

- (1) 移動支援に関する取組事例について（※市交通政策課協力）
- (2) 移動支援に関する今後の進め方の整理

■ 議事内容（要約）

移動支援の取組推進にむけて、他地域の事例を参考に、今後の進め方を整理した。

- ・今後共助交通の検討にあたり、通院・買い物・公共交通機関へのアクセスなど、支援を優先すべき場面を把握し、支援の対象を絞り込んでいく必要がある。
- ・利用目的に応じて、定期運行か個別運行どちらの手法が適切かどうか見えてくる。例えば、買い物に絞るのであれば、定期運行が適しているのではないかな。
- ・浄水地域は基幹交通が比較的充実している。それ以上の移動支援となると、電話等で予約可能な個別運行の支援をベースに考えていくことが有効なのではないかな。
- ・定期運行が整備されていても、通院を目的とした利用では、運行時間と合わない場合があり困っている声を聞いている。また、バス路線から離れて住んでいる方や、バスが通っていない目的地への移動に困っている方もいる。
- ・介護認定を受けている方にはタクシー料金の助成があるが、近距離移動だと嫌がられないか、心理的に使いづらいことがあると聞く。共助交通によりその負担感が軽減されるとよい。
- ・対象者の人数によって、自己負担の割合も変わってくる可能性がある。この点についても、今後検討していく必要がある。
- ・制度をスタートしても利用者がいない状況は避けたい。ニーズを把握するためにAI等を活用したアンケートの実施が有効ではないか。その結果により、最適な提供手法も導き出せると考えられる。
- ・アンケートも重要だが、設計・整理に時間を要する。いきなり本格運用のための準備をするより、まずは身近な声を基に、小規模・限定的なエリアで試験的に運用してみて、利用実態を把握することも有効なアプローチではないか。
- ・伊保原自治区では、選挙時の移動支援や利用者アンケートが予定されている。取組を通じて見えてくる利用実態を地域会議で共有しながら、今後の方向性を話し合い、自治区役員を中心とした取組の素案づくりや試験的实施につなげていく流れが望ましいのではないかな。

■ 今後の予定

令和7年度第4回浄水地域会議

令和7年8月6日(水) 午後7時～ 浄水交流館大会議室にて